



TITLE:

スミスの浪漫派経済學 (アダム・スミス生誕二百年記念號)

AUTHOR(S):

山口, 正太郎

CITATION:

山口, 正太郎. スミスの浪漫派経済學 (アダム・スミス生誕二百年記念號). 經濟論叢 1924, 18(1): 312-328

ISSUE DATE:

1924-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128108>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷八十第

號念記年百二誕生スミス・ムダア

口 繪 スミスの肖像・筆蹟・國富論初版扉・記念會寫眞

スミスの生涯・・・・・・・・・・・・・・・・・・經濟學博士 本庄榮治郎

道德的價值判斷に關するスミスの思想・・・・・・・・法學士 恒藤 恭

富國論の研究方法に就きて・・・・・・・・法學博士 財部 靜治

スミスとコンヂアツクとの價值論・・・・・・・・法學博士 田島 錦治

スミスの所謂「眞實の價格」について・・法學博士 河上 肇

スミスの價格論と分配論・・・・・・・・經濟學士 谷口 吉彦

スミスの自然主義觀と自由政策の見地・・法學博士 河田 嗣郎

スミスの自由放任論の特徴・・・・・・・・經濟學士 堀 經夫

スミスの自由貿易觀・・・・・・・・法學士 作田 莊一

スミスの對植民地策・・・・・・・・法學博士 山本美越乃

スミスの租稅原則・・・・・・・・法學博士 神戶 正雄

スミスの公債論・・・・・・・・法學博士 小川郷太郎

スミスと浪漫派經濟學・・・・・・・・法學士 山口正太郎

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書・・商學士 武藤 長藏

書目 スミス關係書目（細目裏面を見よ）

記事 スミス記念會記事・・・・・・・・經濟學博士 本庄榮治郎

スミスと浪曼派經濟學

山口 正 太 郎

一
アダム・スミスの經濟學方法論に對して先づ反對の聲を擧げたのは獨逸の歴史派に屬する人々であつた。該派初期の代表的學者ブルノー・ヒルデブランドは云ふ。

『アダム・スミス及び彼の學派は……國民經濟學を、總ての時代、總ての國民に絶對に妥當する法則を以て築き上げねばならぬとした、恰もルソー及びカントが人間の天稟の差、國民の素質及び發達階段の差等を顧慮せず、絶對的國家を目標とした如く、アダム・スミス及び彼の學派は……各國民の特殊の事情や發達條件を無視して普遍妥當的な法則を得ようとし、從て世界的又は人類的な經濟學を建設しようとした。……彼等は人間と物財との關係を基礎とする經濟學の法則を以て時間と空間とを超越せしめ、現象の總ての變化を無視し、社會的實在としての人間は文明の所産にして歴史の生む處なるを忘れ、人類の欲望、教化、物財及び他の人々への關係が地理的に相違し、歴史的に變化し、從ては又、人類の一般的文化と共に進歩するものなる事をも忘却してゐ

る』。

斯くスミスを批評し來つて、彼は最後に、『スミス學派は經濟學を以て、各個人が純粹なる利己心により發動する人類相互の交易關係の自然學說と解した。そして利己心は他の自然力と同じく、同じ方向に作用し、同じ事情の下にあつては常に同じ結果を齎すものと假定してゐる。之等の點から人々は獨逸に於ても英國に於ても、彼の學派の法則を經濟上の自然法則と呼び、他の自然法則の如く經濟法則に永久的持續性を與えてゐる』。

と云つて、スミス及び彼の學派は自然法的見解に捉えられたものと斷じた。フリードリッヒ・リスト亦、アダム・スミスが世界主義と個人主義とを主張して此中間に存する國民性を沒却し、歴史的傳統を異にする諸國民を通じて普遍的なる經濟原理を適用せんとする事を難じてゐる。³⁾ 歴史派經濟學を奉ずる他の人々のスミス評は結局以上の點と五十歩百歩であつて、英國正統學派の自然法的見解に反旗を飜すのが彼等の最初の企であつた。

歴史派經濟學者のスミス批評と正反對にスミスを以て餘りに事實に即して法則の發見を蔑視したと云ふ批難の聲が『孤立國』の著者フォン・チューネンによつて擧げられた。

『此の説明——スミスの市場價格の説明——は實際生活に基くものであるが、實際生活に基く

- 1) Hildebrand, Die National ökonomie der Gegenwart und Zukunft. 1848 S. 27-29.
- 2) Hilteb and, a. a. O. S. 33. 34.
- 3) 拙稿「リストと歴史派經濟學」經濟論叢第十五卷第六號 一〇八頁參照

と云ふことは科學に對して何を寄與し得るであらうか。理性は實際生活の中には存しない。⁴⁾『アダム・スミスの利潤に關する研究は各國、各時代に於ける利潤の大きさに就て尊重すべき報告はあ
るが、利潤及び利子の高が如何にして定めらるゝかと云ふ法則は述べて居らない。』⁵⁾『孤立國』の
處々に述べられたアダム・スミスの批評はスミスが事實に即して法則を輕んじた點にあつた。之
はチューネンの如く、孤立國を假定して經濟現象間の法則を闡明しようとする演繹的、數理の方
法を重要視する立脚地に於ては或はスミスを以てしても猶實證的方法に捉えられたものと見らる
るのである。それにしても歴史派經濟學者のスミス評と比較して、斯くも立場の相違より異れ
る批評を生じたのには驚かざるを得ない。

歴史派經濟學者の多くは、スミスの方法論を批評するに當つて、スミス獨りではなく彼の後繼
者をも含めて、英國正統學派全體の方法論を目標として之を打破するに全力を擧げてゐる。此正
統學派の絕對論的見解に對して歴史派が相對論的見方を主張した處に、所謂歴史派の面目が存す
るのであるが、茲に問題となるは、アダム・スミスの方法論と彼の後繼者、殊にリカードの方法
論とは規を一にしたものと見て差支なきものであらうかと云ふ點である。此點を中心としてスミ
スの方法論の解釋に第三の見方を生じた、それはアダム・スミスはリカードに比べると餘程、

4) Thünen, Der isolierte Staat. Heraus. von Waentig. 1921. S. 455.

5) Thünen, a. a. O. S. 451.

事實に即して居り、抽象的學理に對しては直ちに現實の事實に其例證を求めて居る、彼にあつては歸納法と演繹法との綜合が行はれ、抽象的學理と歴史的事實の敘述とが共に、同じ程度に採り容れられてゐると云ふにある。スミスは利己心を以て經濟生活の動機としたが、之は頭腦の中の單なる抽象的產物ではなくて、實際生活の事實が彼の心に斯く映じたのである、彼の演繹的推理が必ず經驗的實證を伴ふのはリカードと異なる處であつて茲にアダム・スミスの綜合的頭腦の偉大さが存すると見る。⁶⁾

デキツエルはアダム・スミスとリカードとの方法論上の差を以て、前者は利己心及びそれに應じた經濟組織を以て事實上の前提としたに止まるが、リカードは之等は以て公理として絕對的要請とした點にあると云ひ、スミスがリカードよりも現實の事實に即すること多き點を擧揚してゐる。⁷⁾ 此第三の立場では、スミスが歸納法と演繹法との綜合をなした點にスミスの偉大さがあるとなす人と、斯く二つの方法を探り容れて右に左に動搖してゐるのは却て彼の方法論に何等の組織無きことを表明してゐるのではないかと批難する人がある。⁸⁾ 然し此の第三の立場は、前述第一第二の立場の如く、既に方法論上一箇の主張を有して、其立場からスミスの方法論を吟味した所謂色眼鏡を通じたものでなくて虚心にスミスを觀察した長所を有してゐる。

アダム・スミスが抽象的、普遍的に偏せなかつた例證は隨所に之を擧げる事が出来る、彼は普遍

6) Erwin Nasse, Das 100 jährige Jubiläum d. Schrift von Adam Smith. Preuss. Jahrb. 1876. S 390 ff. zitiert bei Liefchitz, Adam Smiths Methode. 1906. S. 28. 29.

7) Dietzel, Beiträge zur Methodik der Wirtschaftswissenschaft. Jahrb. f. Nationalökonomie. 1884. S. 18.

8) Liefchitz. a. a. O. S. 30.

原理を提唱した後には之を實證するため歴史的事實を採用し、時には比較歴史的方法を採つた處もある。例へば國富論第四篇第七章「植民地論」の如きは全章殆んど史的敘述と云ひて可なるべく、殊に此章に於ては、ノリードリツヒ・リストがスミスを評したように彼は世界主義的立場に終始したのではなく、國民經濟的色彩を多く有してゐる。又第一篇第十一章「地代論」中銀の價値の變動に關する史的敘述の如き、更に亦少なき個所個所に於ける史的敘述は枚舉するに暇がない、例へば「賃銀論」に於て、一國の富、如何に大なるも、其増加の勢の停止せる國では、賃銀は非常に低く、勞働者の生活狀態頗る悲慘なるものあるの例證として支那廣東地方の狀況を述べ、下層民が陸上に宿るべき家なく、數千の家族が漁船に密集して生活し、歐洲船の通る毎に其棄てる廢物を争つて拾ひ上げ、犬猫の屍體さえ悦んで之を拾ふと云ふが如き、興味ある事實を擧げてゐる。¹⁰⁾以上の例によつて知らるゝ如く、アダム・スミスは抽象的學理の建設に急であつて史實を無視したのではない、否反對にスミスは史實を重んじて普遍的斷言の提唱の裏面には、之が史的考察を怠らなかつたので、歴史派經濟學者のスミス批評の如きは餘りに我田引水のなりと云はねばならぬ。

二

經濟學方法論から觀たスミス評に以上述べた三つの異つた方向があるが、更に今一つ、スミス

9) Adam Smith, *Wealth of Nations*. Cannan's ed. Vol II p. 58-140.

10) Adam Smith, *Ibid.* Vol I. p 177-210.

11) Adam Smith, *Ibid.* Vol. I p. 74.

的の自然法の見解に反對すること歴史派の如く、然かも亦、歴史派の實證的方法を厭ひ、真理探求の途は嚴密なる論理の分析にあらず、又冷靜なる客觀的事實の描寫にもあらず、科學的推理の彼岸に眞理を求むる知的直觀の綜合統一を高調する所謂浪漫派經濟學がある。

浪漫派經濟學の代表的學者はアダム・ミュラー（一七七九—一八二九）である。煩瑣なる思辯を放れ、內的經驗の事實に直面する時にのみ開かるべき眞理の世界に、論理の峻嚴を放棄して肉迫しようとする試み、此試みは哲學史上シェリングによつて展開せられたが、此精神が經濟學上に反映して浪漫派經濟學を發生するに至つたのである。アダム・ミュラーの思想に大なる影響を与えたのはシェリングの哲學と、エドマンド・バークの『佛蘭西革命の考察』であつた、後者は當時ミュラーの友人であり師であつたフリードリッヒ・ゲンツによつて獨逸語に翻譯せられ、獨逸の思想界に紹介せられたのであるが、ミュラーは此書によつて英國流の個人主義的自由主義に對する反感を抱き彼自身の有機的綜合觀を築き上げたのである。¹²⁾

アダム・スミスは『國富論』を、かの有名な句で始めてゐる。

『各國民の年々の勞働は本來、その國民に生活の、あらゆる必要品及び便宜品を供給する基金である。そして其基金は常に勞働の直接の生産物から成り立つか、或は其生産物で他國民から購買

12) Windelband, Geschichte der Philosophie 8. Aufl. 1919. S. 501-503.

13) Ingram, History of Political Economy, enlarged ed. 1919. p. 185.
Aino Friedrichs, Klassische Philosophie und Wirtschaftswissenschaft.
1913. S. 161. Adam Müller, Ausgewählte Abhandlungen. 1921. III. Adam.
Müller und die deutsche Romantik, Ein Lebensbild. S. 131.

するものから成り立つてゐる。¹⁴⁾

アダム・ミユラーは直ちに此スミスの卷頭の句に反對して云ふ。

「スミスによれば國富とは國民の總勞動の物質的生産物である。生産物の物體であること、把握し得ることが國富存在の本質的條件である、國民經濟上の見地から如何なる勞動が生産的であるかと問へば、メルカンチリストは貨幣を齎すもの、即ち生産的勞動なりと答へ、フキジオクラートは農耕に用ひらるゝ勞動之なりと答へ、アダム・スミスは一般に物財を齎すもの之なりと答へるであらう。……觀念上の生産物、國民の最美な、最も尊敬すべき利益、高貴な精神上的の生産物はスミスにとつては經濟上の價值はない、政治家の考え、それは恐らく數百萬の現實の貨幣を齎することになるであらうが、又藝術家の言葉、それは恐らく國民の精神を豊富ならしめるであらうが、然し、スミスにとつては之等の無形のものは經濟學上價值がない。……成る程、國富を計算する際には、かゝる無形の富は評價することは困難であらう、然し富の必然的條件は人間に生活を確保するものであるとすれば、物質的財の所有少くとも精神上の内的價值を多く有せる人は富人と云つてよからう、目に見えない勞動も國富の評價の際には大きな重要さを有すべきである。

國民經濟學が國富の評價の完成、國家の收入、支出の年々の狀態の詳細を目的とするならば、直ちに吾人の心に思ひ浮ぶは商人の帳簿上に於ける日々の貸借對照表は決して其商人の財産の正

14) Adam Smith, Ibid. Vol I. p 1.

しき標準とはならないことである。寧ろ、目に見えず計算することも出来ないが其商人の業務の方法、投機的精神が財産の眞の價值を示すものである、國富評價の性質も亦、之と同じである」¹⁵⁾斯く精神的富を高調して、スミスの見解が物質的に偏局せることを攻撃するのは恰かもフリードリッヒ・リストが、スミスが現實の國富を重要視して、將來之を發生、増殖せしめる處の無形の生産力を顧慮せなかつた事を痛撃したのと規を一にしてゐる。

アダム・スミスは分業を以て、(一)技巧の増加、(二)仕事より仕事に移る際に浪費される時間の節約(三)勞働を容易に具つ簡略にし、一人をして多數人の行ふ仕事を爲さしむる機械の發明を促す、等の利益あることを述べ分業が一國生産の隆盛を齎すべき最大原因であることを『國富論』卷頭の章に於て述べた事は周知の事實であるが、アダム・ミュラーは此點に反對の意を表してゐる、スミスは分業の弊害を無視し、其長所を纔々數百言を費して述べ、唯市場の廣狹により分業に制限¹⁶⁾あることの點以外、分業謳歌の聲を列ねてゐる、之に對してミュラーは云ふ。

『近頃、新しい英國の一學者は、英國に於ける人心の墮落を告げ、都市、工場、鑛山に密集せる下層階級は健全な一農夫のもつ極く簡單な自然の法的感情をすら失つてしまひ、大犯罪は他國では先づ特權階級から初まるにかゝらず、英國では平均して社會の最下階級から發生すると述べてゐる、此理由は明白である、それは分業の結果、仕事が偏局し、圓滿な人間性が傷けられ、人

15) Adam Müller, *Ausgewählte Abhandlungen*. S. 39-42.

16) F. v. d. L. List, *Das nationale System der Politischen Oekonomie*. herausg. von Waenig. 1920. S. 220-238. 325.

17) Adam Smith, *Ibid.* Vol. I. p. 5-14.

18) Adam Smith, *Ibid.* p. 19-23.

間としての法的感情も、常に分業に従事してゐる人々には失はれるからである、英國に於ては特權階級は充分の教養を受けて人間生活の全方面に活躍し、分業の弊害を被らないから、此階級から、重大犯罪が生ぜないので、大陸諸國では之と異り、分業は反對に特權階級、高き階級に行はるゝも、下層階級は未だ純粹で農を樂み或程度に完全に人間性を享受してゐる、從て重大犯罪は下層に少く上流に多いのである¹⁹⁾。

斯くミュラーは分業の弊害を述べ來つてスミスの分業萬能論に反對してゐる。

三

アダム・スミスは農業に於ては工業に於ける如く分業を密に行ふことが出來ないとて、工業に於ては紡ぐ人と織る人とは大抵別人であるが農業に於ては耕す人、種蒔く人、收穫をする人は多くの場合同一人である例を擧げてゐる、歴史派のヒルデブランドはミュラーのスミス批評紹介の中に、以上の點から分業が工業に於て最顯著だとすれば、スミスの所謂分業謳歌論を基礎とせる『國富論』は英國を云ふ工業國を眼目とした經濟學であつて英國の都市的、工業的性質に對して歐洲大陸の諸國は農業國的色彩を帯びてゐるからスミスの經濟學は必竟英國一國にのみ妥當するもので他に及ぶものではない、歐洲大陸諸國に於ては經濟財の交換價值や工業に偏局した生産を論ずる經濟學よりは、あらゆる生産業の調和した國民的統一が必要であつて、個人所有權を基礎と

19) Adam Müller, a. a. O. S. 46. 47.

20) Adam Smith, Ib.d. p. 7. 8.

するよりも國民としての統一した所有權を根底に置く經濟學を欲するのであると云つてゐる。²¹⁾

「アダム・スミス」の個人主義的にして、同時に方法論上、時間と空間とを超越して妥當する經濟法則を主張する意味にての世界主義的たる經濟學に對して、國民的立場、傳統的精神と云つた個人主義、世界主義の中間に位する立脚地から經濟學を建設しようとして、先づスミスに對して反旗を翻したのがフリードリッヒ・リスト及びアダム・ミュラーの特色とも云ふべき點である。

「アダム・スミス」は自己を最も長く知れるものは自己なるを以て、自由に放任して各自に競争せしむる時は、利己心の存する結果、²²⁾各自が最も長く富み、斯くて之等の個人の富を集合せしむる時、國家の富も亦増加すと觀た、ミュラーの自由競争に關する見解は、各個人が自己の財産を増殖するためには孤立してゐては如何とも爲す術がない、必ずや他人と交渉せなければならぬ、而して各個人の財産は量に於てのみならず質に於ても相違するもので、例へば農業に従事する人の個人財産と工業に従事する人のそれとは質に於て差があるが如くである、從て個人財産を増殖するには質を異にする他人のそれと何等かの交渉關係に入るわけであるが、そして其交渉關係は、アダム・スミスの觀る如く全く各個人の自由であるが如くではあるが、實に各個人の財産なるものは綜合財産、例へば國家の財産、國富の一部分としてのみ意義があるので、個々に獨立した私有財産權なるものは抽象的產物であり無意味である、獨立せる個人財産が集合して國富を形成するの

21) Hildebrand, a. a. O. S. 43. 44.

22) Adam Smith, Ibid. p. 16

ではなく、國富の一部分として個人財産が初めて存在の意義を有するのである。従て自由競争なるものも國家の見地からして何等牴觸せざるものゝみ、或は國家の見地を認めて初めて成立する自由競争のみ、眞の自由なのであつて、獨立せる各個人の任意の行動は眞の自由とは云ひ得ないと云ふにある。²³⁾

四

フキヒテの知識學は自我の發展を中心思想とする、我は我なり、或は $\Delta \parallel \Delta$ は創造の活動そのものが被創造物となることを云ふ、換言すれば、動的なる當爲が靜的なる存在を創る過程に我の發展がある、創るもの即ち創られたるものと云ふ我の發展に對立するものは非我 *Nicht-Ich*であつて此我と非我は又一步高き立場に於て綜合され、更に大なる我が律せられる。フキヒテの知識學に於ては、乍然、不幸にも非我は更に大なる我に達すべき手段たるに過ぎない。シェリングは此非我、即ち我に對立する自然がフキヒテにあつて不當に蔑視されてゐるのに不服を感じて先づ自然哲學を建設し、之に對して我を説く先驗觀念論を述べ、此兩者を最後に統一して融一哲學 *Identitätsphilosophie* を築き上げた。彼にあつては先驗觀念論と自然哲學とは同一の楯の表裏をなすもので互に獨立の原理を有しながら融合するものである、要するにフキヒテにあつて輕視された自然の中に我の姿を眺める自然哲學の過程が高調された點にシェリングの哲學史上の地位が存する。

23) Adam Müller, . a. O. S. 34-39.

のである。²⁴⁾

我と非我とが獨立した對等の地位を保ちつゝ融合せらるゝシェリングの哲學がミューラーに最も大なる影響を與えたのは後者の國家觀である。

アダム・スミスは個人及び其所有せる富の算術的總計を以て國家及び國富と解した所謂 Atomism 的思想家であつたがミューラーは之に反對して國家、國民經濟を以て有機的全體と考え、國家以外に存する人間は眞の人間ではない、國家の統一の下に入つた人間のみ眞の人間であつて、富と云ふ觀念も亦、國家以外に獨立してゐる時は單に無意味の存在であつて、國富の一部分として國家の範圍内に於て、國家によつて存在を保證せられて初めて眞の富たり得るのであると云ふ。人と富とは國家的統一の下に初めて眞の意義を獲得するもので、所謂 *volonté de tous* と *volonté générale* とは分たるべく、*intérêt de tous* と *intérêt générale* とは分たるべくものである。アダム・スミスの勞働の觀念も亦國民生活全體を一つの大きな勞働と觀じ、其一部分を構成するものと見る時に初めて眞となる。スミスに於ては『國富論』を通じて、特に消費に關して述べて居らないが、之は不完全であつて、生産と消費とは同一物の両面で他方なくして、一方は意義を有せない、生産を力説して消費を輕視するは偏局的たりとの譏を免れないとミューラーは云つてゐる。²⁵⁾要するにミューラーは國家を以て『それ自ら生命を有し活動する有機的全體で、其内部に於

24) Wi delband, Geschichte der neueren Philosophie, B! II. 7 u 8 Aufl. 1922. S. 245.-258.
25) Adam Müller, a. a. O. S. 3-16, Hildebrand, a. a. O. S. 44-47.
Roscher, Geschichte der Natinal Oekonomik in Deutschland. 1874. S. 765. 766.

て、國民の物質的、精神的欲望、物質的、精神的國富、國民の內的、外的生活の總體が統一されてゐるもの』²⁶⁾と解し、原子論的見解に對し、融一哲學の立場を述べてゐる。

五

アダム・スミスの貨幣論は所謂金屬論者のそれであるに對し、²⁷⁾ミユラーの貨幣に關する見解は餘程、浪漫的である、社會の各個人は互に交渉せねばならぬが、此際、價值を測定し、交換を媒介するの任務を盡くすものは總て貨幣であつて、其實質が貴金屬であると、他の貨物であることを問はない、否一步進めて考えると、此任務を果す限り人間そのものも亦貨幣である。外國貿易上使用さるゝ貴金屬貨幣は、其流通上から見て世界的であるに對して紙幣は國內的である、恰かも世界語に對して、其國にのみ適用する言語の如くである、從て紙幣の特徴は國民をして、其國家に一層緊密に關係せしめ、國家の利益と國民の利益とを連絡せしむるにある、英國風の世界市場的觀念に對して國家主義を鼓吹するにあづかつて力がある²⁸⁾『金屬貨幣の流通は自然的であるが、紙幣の流通は人工的である……各國共に紙幣は既に存在してゐるから。之以上に増加する必要はないが、既存のものを更に活用し、其流通を活潑ならしめる事が、國家經濟上緊要事である』²⁹⁾と云つてゐる。ミユラーが紙幣を以て國家主義鼓吹の手段と解したのは甚だ奇抜な感を與える。更にアダム・ミユラーの金融に關する見解に就ては奥國に對する國立銀行設立案の提唱があ

26) Adam Müller, a. a. O. S. 9.
27) Adam Smith, Ibid. p. 24-31.
28) Ro-cher, a. a. O. S. 769, 770.
29) Adam Müller, a. a. O. S. 34.

る。貨幣が昔、私人の事務で國家の關係する事項でなかつた時には、事實上貨幣無くとも各人の欲望は充されて行き、貨幣は、あれば便宜と云ふ程度であつた、然るに十六世紀末に貴金屬の產額が急激に増加し、社會の進歩に伴つて、貨幣は遂に國家の創造する處となつた。茲に於て、以前は貨幣の問題と云へば貨幣量の大小と云ふことであつたのが、貨幣流通狀態の健全なりや否やと云ふに變化して來た、貨幣の發達と共に、ベニス、ゼノア、倫敦、漢堡、等に金融の便を圖る大銀行が設立さるゝに至つたが本來、人間の體内の構造は、生理學者に云はすと、エネルギーの蓄積と流通との二つの作用に適するように出來てゐる、此現象は貨幣に就ても云ひ得らるゝもので、銀行は一面に於て貨幣の預入、即ち預金銀行としての作用と世間に流通せしむる所謂發券銀行としての作用とを有するものである、貴金屬貨幣のみでは一般人の經濟的活動に伴ふ貨幣の需要を充すことが出來なくなり、且つ又、歐洲に入り來る貴金屬の年々歲々の額は永久に繼續する見込が確立してゐる譯ではないから當然紙幣を發行して之が不足を補はねばならぬ、強制通用力を有する紙幣の發行と云ふ事務と預金銀行たる作用とは、人體の構造に於て二つの作用が統一さるゝ如く、本來、銀行に於て統一されなければならぬ、此二つの作用の統一は國立銀行の設置によつて完全に行はれる、銀行が何れか一つの業務にのみ偏するのは完全とは云へない、國家的統一の立場から兩作用を兼ねた銀行を設立するを要すると云つてゐる。³⁰⁾

アダム・スミスは生産の要素を、文明社會即ち、土地の私有、資本の蓄積ある社會に於ては、土地、資本、勞働の三者なりとし一つの商品の價格は此三者に分解し歸屬せしめらるべきものとした。³¹⁾そして資本は廣義に於ては、收入を發生すべき所謂狹義の資本と、所有者自ら生計を維持するに使用する部分との兩者を含めて居り、狹義の資本は更に之を絶えず循環、流通せしむるによつて收入を發生する所謂流通資本と、主人を變ずることなく、轉々流通せずして收入を生ずる所謂固定資本との二つに分類してゐる。³²⁾

アダム・ミユラーは之に對して生産要素として、土地、勞働、精神的資本、物質的資本、の四を擧げ、土地は自然法則によつて生産を制限する作用を有すると、持續性を有するを特徴とし、勞働は非持續的で、兩種の資本は、過去の生産物を代表すると共に、持續的であり、又一面からは非持續的でもあると云ふ特徴をもつてゐると云ふ。ミユラーはスミスの物質的資本觀に反對して資本にも精神的資本の存在する事を述べたのは彼の全體系たる浪曼的經濟學の一片鱗と云ひ得ると思ふ。ミユラーは又産業と幸福との關係に就ても産業の發達、利益の獲得は物質的、計數的測定を以て斷すべきものでなく、組織的全體としての生命そのものの關係から判斷すべきことを主張してゐる。³³⁾茲にも浪曼的精神の表現を見得る。

31) Adam Smith, Ibid. p. 52.

32) Adam Smith, Ibid. P. 261-262.

33) Adam Müller, a. a. O. S. 42-45.

六

フリードリッヒ・リストがアダム・スミスを駁した點、即ちスミスの個人主義と世界主義とに對して、此の中間の國家主義を高調し、傳統的精神の尊敬すべきを説いた點に於てはミュラーのミス評と合致してゐる。唯ミュラーはリストの實證的精神に賛成せないで、却て浪漫的なる融合哲學の背景の中に、彼自身の經濟學を建設しようとした點に於て異なる、歴史派經濟學者の一人たるヒルデブランドがアダム・ミュラーの學說の缺點は歴史的事實の研究に無關心であつた事にあると評してゐるが、³⁴⁾ミュラーが實證的精神を排した點に彼の個性の卓越さが閃めてゐるのである。要するにミュラーがスミスの缺點なりとした條項を列擧すると次の如くである。

(一) スミスは經濟生活の理念としての精神的方面を無視し、餘りに物質的見解に捉はれたること。スミスは常に物財の交換價值を目標としてゐるが、人性の最高本質から見れば交換價值は單に手段としての重要さを有するだけで、之を以て人生の幸福、安寧を圖る經濟學の全局を説明せんとするは過誤なること。

(二) スミスの經濟學は當時の英國を目標とするもので、他の諸國に當て倣まらないこと。當時の英國は工業國として其特徴を發揮してゐるのであるから、英國の國富を増進せしむべき方法として分業を力説するも農業國たる他の諸國は此説を、その儘受容れ難いこと。

34) Hildebrand, a. a. O. S. 54.

(三) スミスの經濟學は抽象的に走ること。例へばスミスが市場價格の外に、理論上斯くあらざるべからざる眞實なる價格を説くが如く、餘りに抽象的、理論的になりたること。

(四) スミスは量的關係を重要視過ぎたること。國民經濟の健全な發達は生産物の量の大きなことに依存せない。寧ろ生産物と欲望とが正常なる關係にあることが大切である。生産過剰は却て國民經濟を害するに至るのみならず、斯く量的に觀察することは價值を貨幣量にて表現すること、なり人間性の没却となること。

(五) 餘りに機械化すること、自然法的見解に支配されてゐること、世界主義に墮せること、理智的分析的に過ぎて、渾然たる融合統一に缺けること、等。³⁵⁾

學問は反對説を検討し行くことに依て自らを深めて行く、此處にアダム・スミスに反對の立場にある浪漫派經濟學の代表的學者アダム・ミュラーの學說の要領を挙げ、スミスの學說と對比したのは故意にスミスを傷けんとするためではない、唯經濟學史上の一事實として、スミス經濟學に對して斯くの如き觀方もあることを示したのである。スミスの後進に垂れたる學恩は偉大である、偉大なるものには反對論も亦、集中される。況んや論争心に富める獨逸の學者が之に敵對するに於ておやである、反對論者は果してスミスの學說を味讀したのであらうか、唯皮相を追ふてゐるに過ぎぬのではなからうか、私は此等の斷定を差し控えて、唯反對論の一典型として浪漫派經濟學を提示するに止めて置く。

35) Adam Smith, Ibid. p. 32

36) Arno Friedrich, a. a. O. II Teil, Schelling und Adam Müller. S. 131-159.